

大館北秋田地域林業成長産業化協議会  
再造林推進部会

協議記録

日時：令和2年9月8日（火）10：00～

会場：大館市北地区コミュニティーセンター 本館 研修室

大館北秋田地域林業成長産業化協議会 再造林部会 出席者名簿 (R2.9.8)

大館北秋田地域林業成長産業化協議会会員

番号	区分	所属	役職	氏名	備考
1	森林組合	大館北秋田森林組合	森林整備課長	阿部 昌宏	
2	素材生産者	(有)阿部林業	(欠席)		
3		(有)畠山造林	代表取締役	佐藤 四郎	
4		(有)花田造材部	(欠席)		
5		(有)伊東農園	部長	佐藤 保	
6		(有)新林林業	総括部長	赤石 勝正	
7		(有)山田造材部	総務担当	菊地 和俊	
8		山一林業(株)	(欠席)		
9		石上木材	(欠席)		
10		小林林業	(欠席)		
11		(有)佐栄林業	(欠席)		
12		(有)中田工業	(欠席)		
13		(株)石川組	代表取締役社長	島崎 祐男	
14		苗木生産者	秋田県山林種苗協同組合北秋田支部	支部長	黒沢 良勝
15	農事組合法人上仏社営農組合		(欠席)		
28	木材流通事業者	物林(株)	資材グループ長	田口 慎二	
			国産材営業室	関口 祐之	
			プロジェクトマネージャー	齊藤 政子	
30	市村	大館市	林政課長補佐	小棚木 信晴	
			林政課木材産業係主査	赤坂 祐幸	
			林政課木材産業係主任主事	千葉 泰生	
			林政課森林整備係主査	安保 貴洋	
31	北秋田市	上小阿仁村	農林課林業振興係副主幹	藤田 学	
			農林課林業振興係主事	長岐 英泰	
32		産業課 主査	田村 勇輝		

大館北秋田地域林業成長産業化協議会委託事業者

番号	名称	役職	氏名	備考
1	森林資源バイオエコノミー推進機構株式会社	代表取締役	高田 克彦	

再造林推進部会では、「協定フィールドの取組み」、「協定フィールドの提案書作成演習」について協議を行いました。

【協議内容】

(1) 協定フィールドの取組みについて

①事務局説明 <事務局>

- ・7月の全体部会では、コロナの影響で今年度の施業を見送った方が多いとの意見が多く出されていたが、国から配分を受けた補助金の執行、モデル事業も後半を迎えた協議会の取組みとしての重要性、経営管理制度の再委託に向けた企画提案書作成演習への活用などの理由から、事業を実施する方向としたい。
- ・材が動かないという状況であることから、事業の繰越も想定しているが、繰越する場合は、予定事業量全てを実施する必要がある。
- ・施業者について、部会終了後、総務部会長から再造林部会員へ施業に関するアンケートを実施し、伐採計画・販売計画がまとまり次第、施業者を決定する予定。

②資料説明

今の材の動きについて <総務部会 副部会長>

- ・多くの工場で7月の状況と大きく変わらず、受け入れ制限が厳しい状況である。毎月の販売枠を確保するのに大変苦労している。
- ・特に合板向けは納入調整が必要であり、想定を大きく超えると高い運賃を払い遠方工場へ納入することになる。

③意見交換

【計画対象地（大館市有林）】

- 1番：0.30ha、約165m<sup>3</sup>
- 2番：0.74ha、約310m<sup>3</sup>
- 3番：2.39ha、約1,003m<sup>3</sup>
- 4番：7.82ha、約3,750m<sup>3</sup>

<総務部会 部会長>

- ・2番と3番は一体の山なので一緒に施業するのが良い。一番面積の大きい4番を繰越したとしても、事業をあまり伸ばしたくないので来春には植えて終わりたい。

<再造林推進部会 部会長>

- ・実施案に「10月末までに植栽」が条件とあるが、昨年11月に植栽した苗木が枯れた状況があるのであれば、無理せず来春に植え付けという判断でも良いのではないかと。

＜再造林推進部会 部会員＞

- ・苗木に関しては、秋の植栽予定が春になったとしても対応可能である。

＜再造林推進部会 副部会長＞

- ・補助金の関係で事業をやるという前提があるのであれば、やるしかない。手分けして協力すれば伐採は出来るかもしれないが、伐った材を動かせるかどうか。

＜総務部会 副部会長＞

- ・2番と3番が一緒に年内に実施することに関しては、皆同じ考えのようだが、1番と4番はどうするのか。面積の大きい4番の分まで売れるかは不安がある。販売する立場としては、4番は繰越してもらいたい。

＜総務部会 部会長＞

- ・去年は、冬前に伐った材を中間土場へ運搬してストックしておき、3月頃まで材を運んでいたの、同じようにできないか。

＜森林資源バイオエコノミー推進機構(株) (委託事業者) ＞

- ・今年2番と3番の事業実施は問題ないようだが、4番について、来年秋の事業完了とした場合、国有林の再造林請負で造林の手が回らないという問題がある。6月の事業完了を目指すなら、今年中にある程度伐っておくスケジュールを組んでおかなければならない。

＜再造林推進部会 副部会長＞

- ・一般材が捌ける状態で合板材受入がネックになっているのであれば、合板材を中間土場にストックしておき、冬から春にかけて捌いて行けばよい。そうすれば4番に手をかけることが出来るのではないか。

＜総務部会 部会長＞

- ・事業の実施者であるため、土場の確保はできるだろう。

＜総務部会 副部会長＞

- ・土場を借りることが可能であれば、販売は何とかなるだろう。

協議結果のまとめ <事務局>

- ・2番と3番は今年の秋伐り秋植えとする。(降雪状況によっては春植え)
- ・4番の半分も今年伐り地拵えまで終える。
- ・伐った材は中間土場を使いながら出していく。

- ・ 1 番と 4 番の残り半分は来年の春に伐って植える。

## (2) 協定フィールドの提案書作成演習について

### ①各市村における森林経営管理制度の取組状況説明

#### 大館市

- ・ 資料に沿って説明。

#### 北秋田市

- ・ 昨年度意向調査した 2 地区の集積計画を作成、新たな地区の意向調査を行う予定。

#### 上小阿仁村

- ・ 委託方式で、昨年度意向調査した地区の集積計画の作成、意向調査の実施、林地台帳データの整理を行う予定。

### ②協定フィールドの提案書作成について <事務局>

- ・ 森林経営管理制度において「森林所有者（大館市）が所有する森林（協定フィールド）について経営管理権を委ねる」という設定で手元の演習用集積計画を作成した。
- ・ この集積計画を基に企画提案する立場として一度作成していただきたい。
- ・ 様式は国で示したものをほぼ踏襲した形であるが、変えることも出来るため、修正した方がやりやすい点などあれば意見を出していただきたい。
- ・ 作業システム検討整理表の目的は協議会として低コスト化に繋げるためのものである。
- ・ こちらも今回の協定フィールドを使って演習していただきたい。
- ・ 部会終了後、期限を設けたうえでデータを配布する。

#### <総務部会 副部会長>

- ・ 作業システム検討整理表の記載方法について説明。

### ③意見交換

#### <森林資源バイオエコノミー推進機構(株)（委託事業者）>

- ・ 整理表の作業システムが搬出までしかないが、土場でグラップルを動かす作業は含めないのか。

#### <総務部会 副部会長>

- ・ 欄を追加する方法もあるが、演習なので搬出に含めてはどうか。

#### <再造林推進部会 副部会長>

- ・ 前回、森林組合で行った実績を整理表に当てはめたらどうなるか参考に見てみたい。

- ・事業体によって機械力、生産能力は異なる。歩掛かりもどうするのか。

＜総務部会 副部会長＞

- ・見積書について、単価、補助金などは共通の数値を使うのが良いのではないか。
- ・企画提案書の「4事業実績」は事業者登録の際、県に提出した様式である程度統一した方が良いのではないか。

### 3 その他

＜森林資源バイオエコノミー推進機構(株)（委託事業者）＞

- ・協定フィールドについて積極的な意見が出され、ほぼスケジュールが決まった。
- ・実施する事業者の決定は総務部会からのアンケート後のようだが、10月からの施業に間に合うよう早めをお願いしたい。
- ・提案書作成演習について、いずれは自分達で企画提案する時のためと思って作成していただきたい。
- ・この演習はあくまでも経営管理制度のための演習なので、今年度の協定フィールドの実施とは切り離して考えてほしい。

～閉会～

大館北秋田林業成長産業化協議会 再造林推進部会(令和2年9月8日)

